

ご使用のしおり

《取扱説明書》

JANOME

安全上のご注意

- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

絵表示の例

	△記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。
	○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり、指示したりする内容を告げるものです。 図の中には具体的な注意内容（左図の場合は一般的な強制）が描かれています。

警告 感電・火災の恐れがあります。

一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。	以下のような時は、電源スイッチを切り電源プラグを引き抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき
----------------------------	--

注意 感電・火災・けがの原因となります。

 【禁止】 フットコントローラーの上に物をのせないでください。 	ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。
 お客様自身での分解はしないでください。 	お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。
 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。 	以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・針・針板・押え・アタッチメントを交換するとき ・上糸・下糸をセットするとき ・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。） ・ミシンのお手入れを行うとき
 【禁止】 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。	
 【禁止】 曲がった針はご使用にならないでください。 	ミシン・フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水に濡れたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき
針及び押えは、確実に固定してください。 又、押えは、縫いに合ったものをご使用ください。	

※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

目 次

おとり扱いについてのお願い	2
●各部の名まえ	3
●補助テーブル	4
●標準付属品	4

操作をおぼえましょう

●電源のつなぎ方	5
●速さの調節のし方	5
●フットコントローラー（別売）の収納	5
●スタート・ストップボタン	6
●上下停針ボタン	6
●返しぬいレバー	6
●押えのとりかえ方	6
●押え上げ	7
●押え圧調節レバー	7
●糸調子の合わせ方	7
●模様選択ダイヤル	8
●送りダイヤル	8
●各模様と押えの関係	8
●下糸の準備をしましょう	9
★ボビンをとり出します	9
★ボビンに糸を巻きます	9・10
★ボビンをかまにセットします	10
●上糸の準備をしましょう	11
★上糸を掛けます	11
●糸通しの使い方	12
●下糸を引きあげるには	13
●布に適した糸や針を選ぶ目安	13

実用ぬいいろいろ

●直線ぬい	14
★ぬいはじめ	14
★ぬい方向をかえるには	14
★ぬいおわりと糸の切り方	14
★厚手の布端のぬいはじめ	14
●ジグザグぬいとかがりぬい	15
★ジグザグぬい	15
★ジグザグぬい裁ち目かがり	15
★トリコットぬい裁ち目かがり	15

★かがりぬいステッチ	15
●くけぬい（まつりぬい）	16
●三重ぬい	16
●伸縮ぬい	16
●ボタンホール	17・18
●芯入りボタンホール	18
●ドロップつまみ	19
●ボタンつけ	19
●ファスナーつけ	20・21

応用ぬいいろいろ

●キルティング	22
●ピンタック	22
●アップリケ	22
●ファゴティング	23
●パッチワーク	23
●スモッキング	23
●スカラップ	23
●シェルタック	24
●ししゅう	24
●飾りぬい	25
●スーパー模様の形の整え方	25

押えホルダー・針・ランプのとりかえ方

●押えホルダーのはずし方・つけ方	26
●針のとりかえ方	26
●ランプのとりかえ方	26

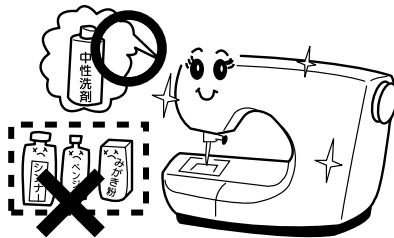
ミシンの手入れと調整

●ミシンの手入れ	27
★かまの掃除	27
★かまの分解	27
★かまと送り歯の掃除	27
★かまの組立て	27
●ミシンの調子が悪いときの直し方	28
別売品のご紹介	29

おとり扱いについてのお願い

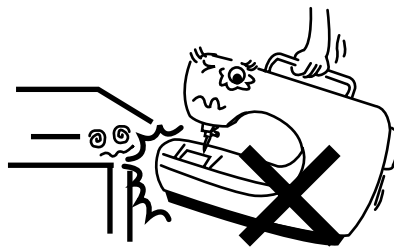
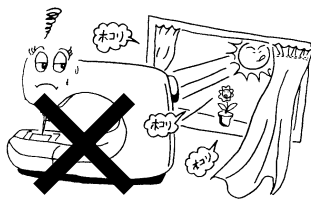
◇ご使用の前に

- ① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。



◇いつまでもご愛用いただくために

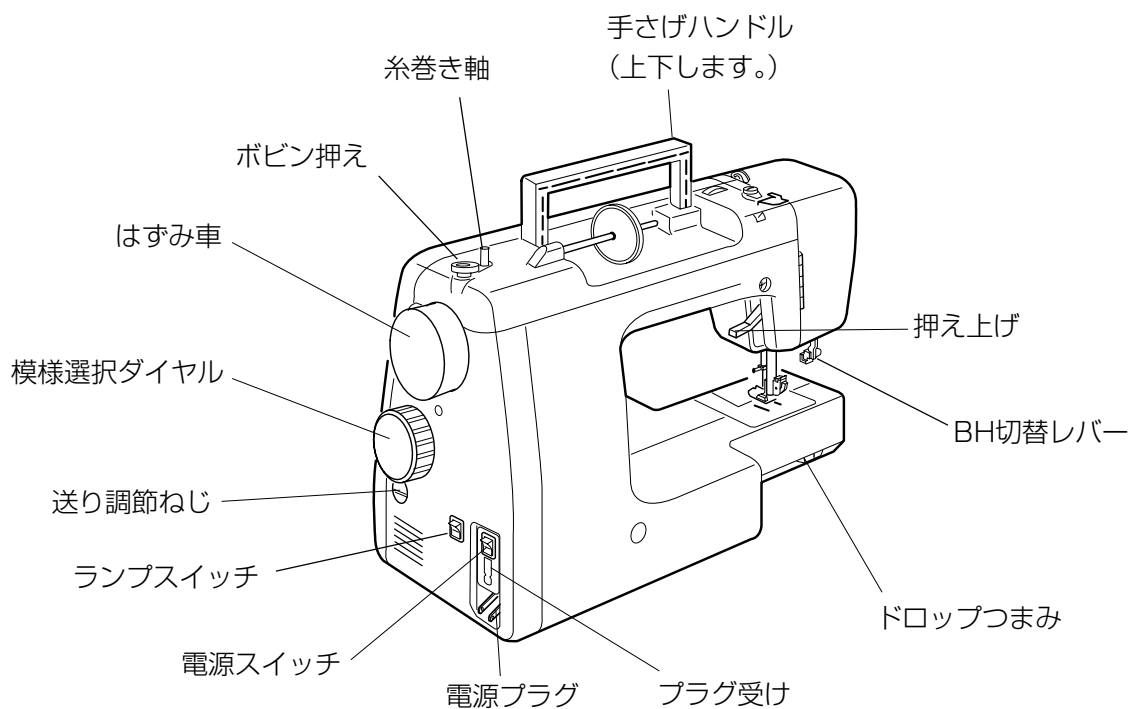
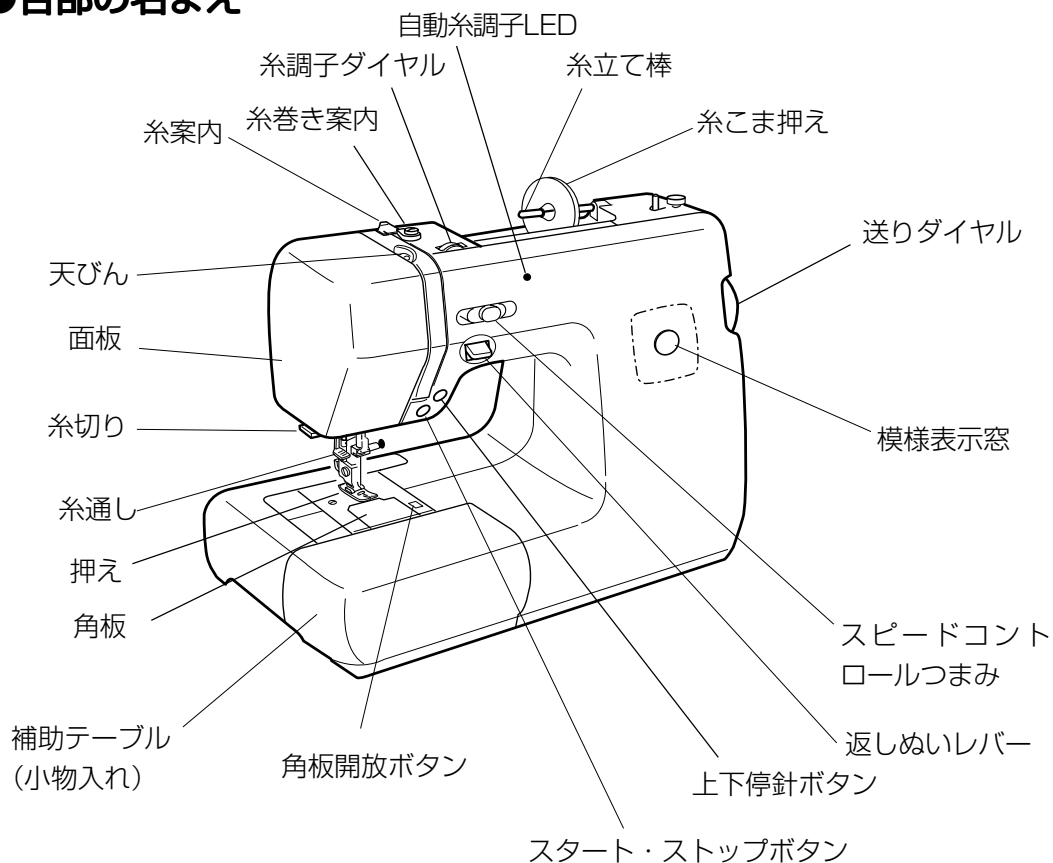
- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。
- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。



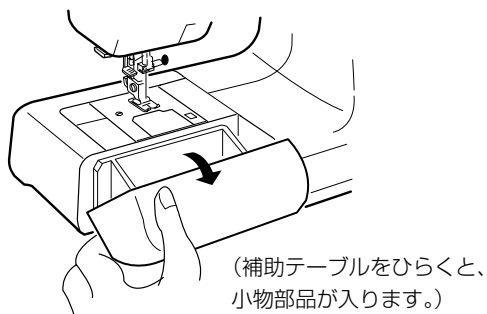
◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(28ページ)により点検・調整を行ってください。

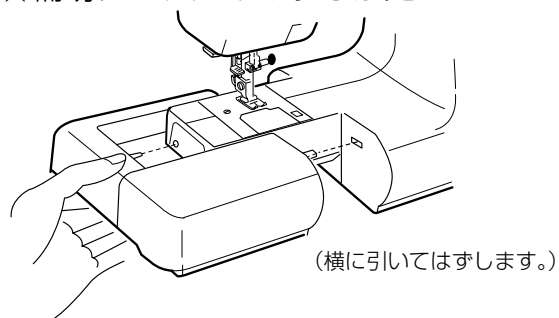
●各部の名まえ



●補助テーブル

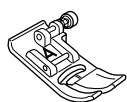


★補助テーブルのはずしかた

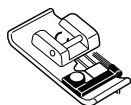


●標準付属品

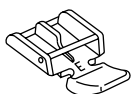
(押えには、記号を表示してあります。)



A 基本押え



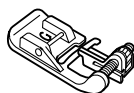
C 裁ち目かがり押え



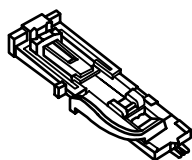
E ファスナー押え



F サテン押え



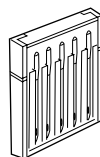
G くけぬい押え



R ボタンホール押え



キルター
(棒定規)



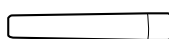
針と針ケース



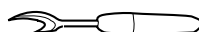
ねじまわし



ボビン



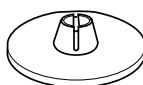
目ほどき



ミシンブラシ



糸こま押え (小)



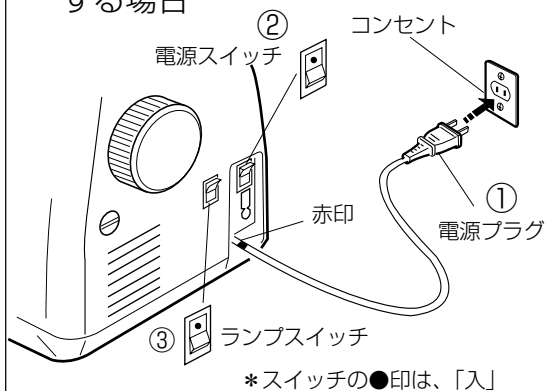
糸こま押え (大)

*糸こま押え (大) はミシンの糸立て棒についています。

●電源のつなぎ方 操作をおぼえましょう

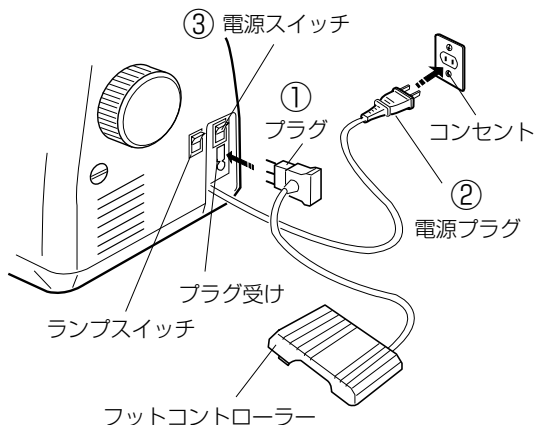
※フットコントローラーはモデルにより別売りになります。

★スタート・ストップボタンを使用する場合



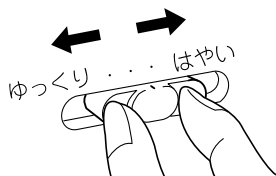
- ①電源スイッチを「切」にして、プラグをコンセントにさしこみます。
- *赤印以上は引き出さないでください。
- ②スイッチを「入」にします。
- ③ランプスイッチを「入」にします。

★フットコントローラーを使用する場合

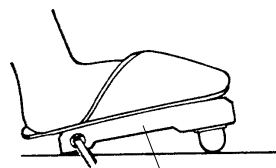


- ①電源スイッチを「切」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
- ②電源プラグを引き出し、コンセントにさしこみます。
- ③スイッチを「入」にします
- ④ランプスイッチを「入」にします。

●速さの調節の仕方



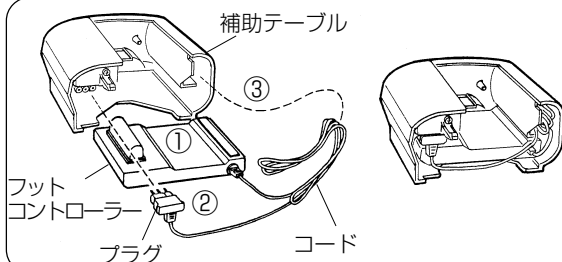
ぬう速さは、自由にセットできますので、好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。



フットコントローラーは、深く踏み込むほど速くなります。

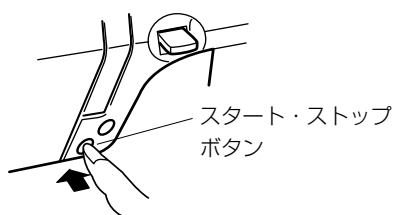
*スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

●フットコントローラーの収納



- ①フットコントローラーを補助テーブルに押しながらいれます。
- ②プラグを補助テーブルの穴にさしこみます。
- ③コードを4つ折りにして、補助テーブルに収納します。

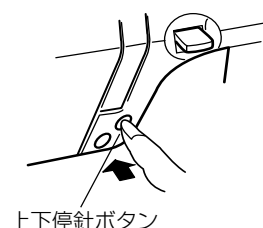
●スタート・ストップボタン



ボタンを押すと、ミシンは数針ゆっくりとぬってからスピードコントロールつまみでセットした速さでぬい始めます。もう一度押すと、通常、針が上の位置で止ります。

※ 下糸を巻くときは、ミシンはゆっくりスタートにならずにスピードコントロールつまみでセットした速さで動きは始めます。

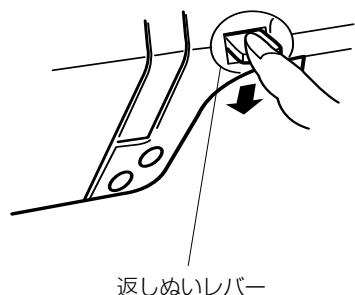
●上下停針ボタン



ミシンが止まっているとき、ボタンを押すと、針が上位置から下位置に切りかわります。

もう一度押すと、上位置に切りかわります。

●返しぬいレバー



返しぬいレバーを押すと、ミシンは低速で返しぬいをはじめ、指をはなすと止ります。

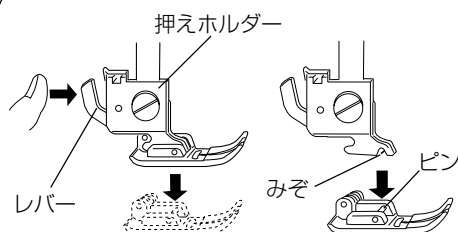
ミシンを動かしている途中で返しぬいレバーを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと、前進ぬいに戻ります。

※ 不用意に返しぬいレバーにふれると、ミシンが動きだしますのでご注意ください。

●押えのとりかえ方



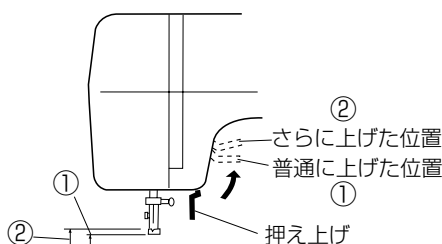
電源スイッチを切ってください。



①押え上げをあげ、押えホルダーのレバーを押して、押えをはずします。

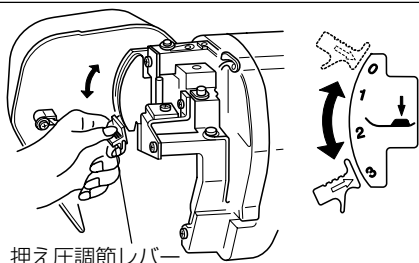
②押えのピンを押えホルダーのみぞに合わせて押え上げを静かにおろします。

●押え上げ



押え上げで、押えの上げ下げをします。
押え上げを普通にあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがります。
補助リフトとしてお使いください。

●押え圧調節レバー



○普通ぬいのはきは、「3」

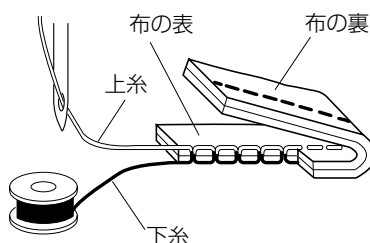
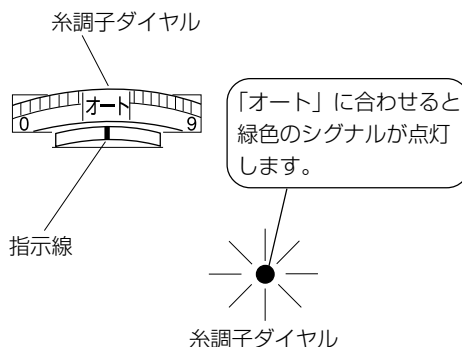
○うす手の化繊地や伸縮性のある布などでぬいずれが
するとき、またはアップリケなどぬいしろ部分が重
なり合うときは、「2」または「1」

○しつけぬいのはきは、「0」

●糸調子の合わせ方

★自動糸調子

このミシンは、糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、普通のぬいのはきにバランスよく
ぬえる糸調子に自動セットされます。



〈バランスのとれた糸調子〉

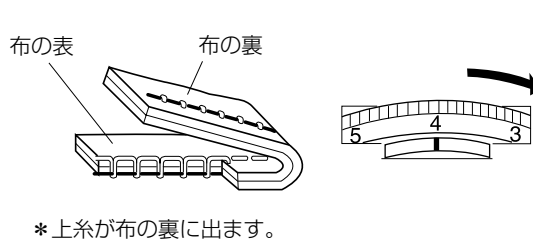
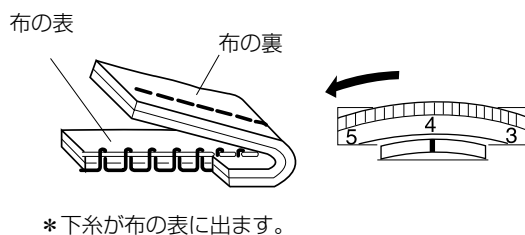
○直線ぬいのはきは、上糸と下糸が布のほぼ中央でま
じわります。

○ジグザクぬいのはきは、布の裏側に上糸が少し出る
くらいになります。

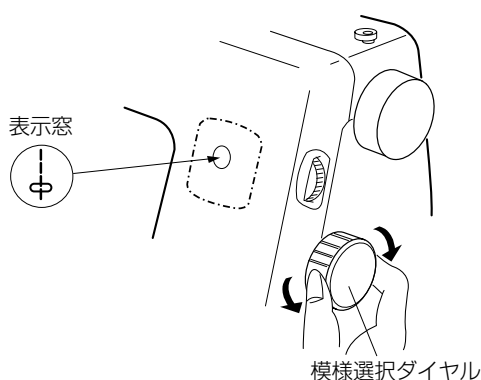
★マニュアル糸調子

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルを「0～9」に合
わせると、マニュアル糸調子となり、上糸と下糸のまじわる位置を自由に調節できます。

・上糸が強すぎるとき・・・小さな目盛りに合わせます。 ・上糸が弱すぎるとき・・・大きな目盛りに合わせます。



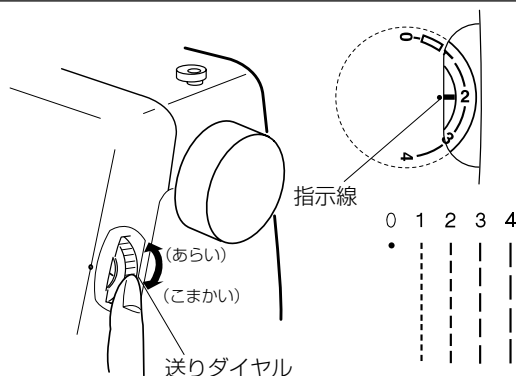
●模様選択ダイヤル



模様選択ダイヤルをまわし、選んだ模様を表示窓に表示させます。

*模様選択ダイヤルをまわすときは、針を布からあげてください。

●送りダイヤル



送りダイヤルをまわして、指示線に目盛を合わせます。

目盛が大きくなるとぬい目はあらかくなります。

*  は、ボタンホールのぬい目あさの調節範囲をしめします。

●各模様と押えの関係

模 様	BH1	BH2			1 	2 	3 					スーパー模様			
主 な 用 途	ボタンホール		キルティングなど ファスナーつけ 直線ぬい		ジグザグぬい かがりぬい・ボタンつけ アップリケ			くけぬい（まつりぬい）	トリコットぬい裁ち目がかり	シェルタック	スカラップ・飾りぬい	かがりぬい	パッチワーク・ファゴティング	伸縮ぬい	三重ぬい
押え記号	R	A・E		A・C・F			G	A	F	F	C	A	A	A	

※スーパー模様は、ぬい目あらかの調節は必要ありません。

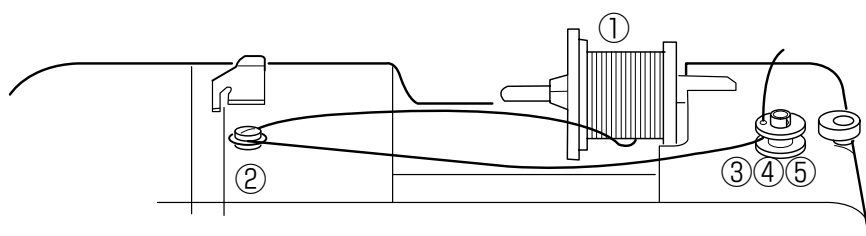
●下糸の準備をしましょう

★ボビンをとり出します



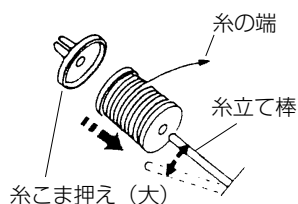
角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしボビンを取り出します。

★ボビンに糸を巻きます

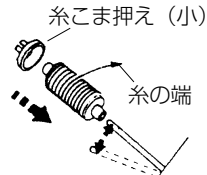


※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「はやい」の位置にしてください。

〈普通の糸こまのとき〉



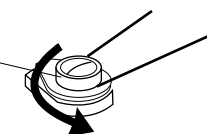
〈小さい糸こまのとき〉



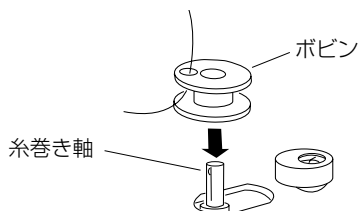
①糸こまをセットします。

*糸立て棒を軽くおこし、糸の端が向こう側に出るようにして、糸こまを入れ、糸こま押えで糸こまをおさえます。

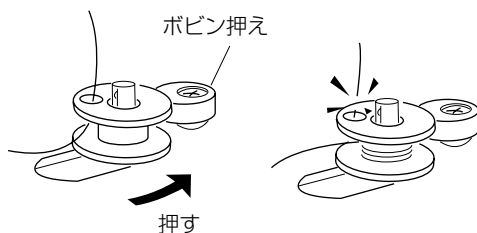
糸巻き糸案内



②糸巻き糸案内に糸を掛けます。

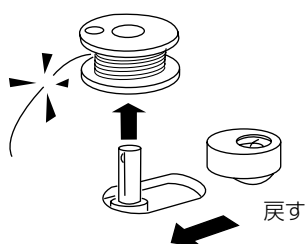


③ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。



④ボビンを、ボビン押えの方に押しつけ糸の端をつまんだまま、巻きはじめます。糸がボビンに3重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。

*糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

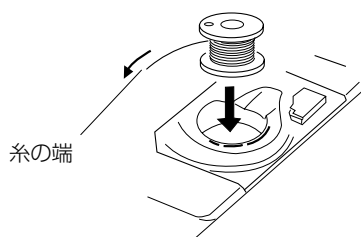


⑤再びミシンを動かし巻き終わったら、ミシンを止め、糸巻き軸をもとにもどします。
ボビンを糸巻き軸からはずして糸を切ります。

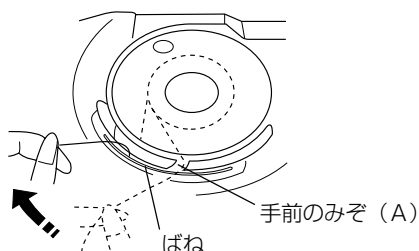
※糸巻き軸をボビン押えの方へ移動させると、模様表示が「緑」から「赤」になります。

※糸巻き軸の移動は、必ず、ミシンを止めてから行なってください。

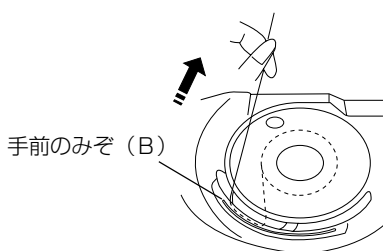
★ボビンをかまにセットします



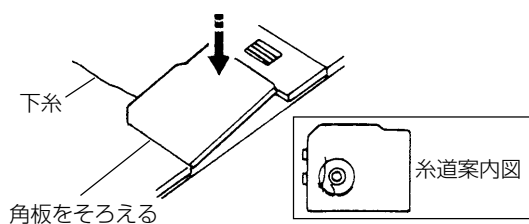
①角板をはずし、糸の端を矢印方向にだして、ボビンを内がまに入れます。



②糸の端を引きながら手前のみぞ（A）に掛け、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねの間を通します。



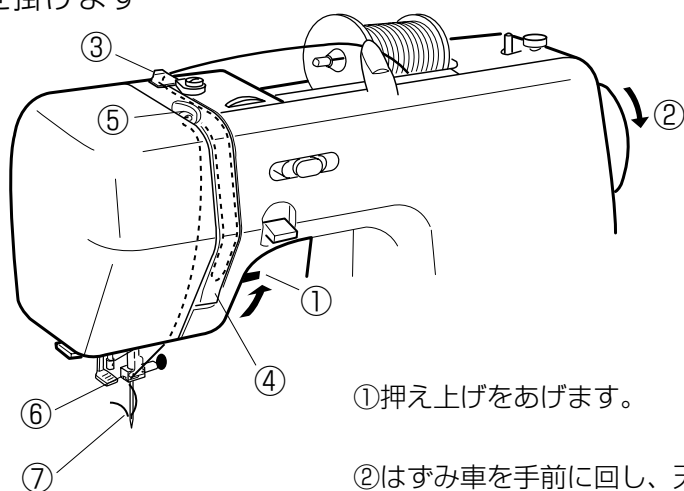
③糸を手前のみぞ（B）に掛けるようにして向こう側に出します。



④下糸を10cmくらい引き出して、角板をつけます。

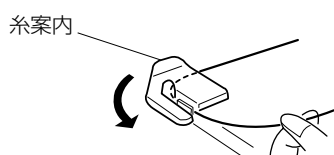
●上糸の準備をしましょう

★上糸を掛けます

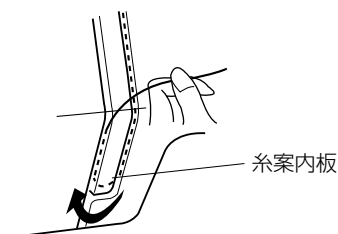


①押え上げをあげます。

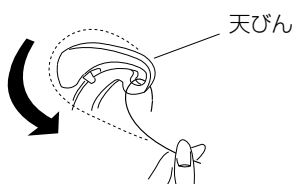
②はずみ車を手前に回し、天びんを上部にします。



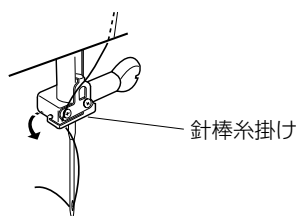
③糸こまから糸を引き出し右手で糸こまを押え、左手で糸を持ち糸案内の向こう側から糸案内板の右側にそって下におろします。



④糸案内板の下を回して、右から左に掛け、上に引きあげます。



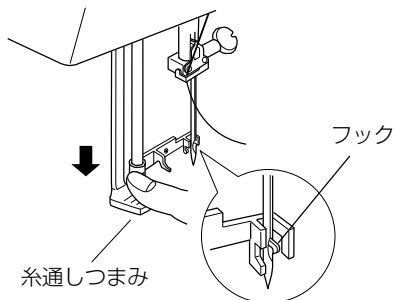
⑤天びんへは、右から後ろを回して左へ出し、手前に引き出して、まっすぐ下におろします。



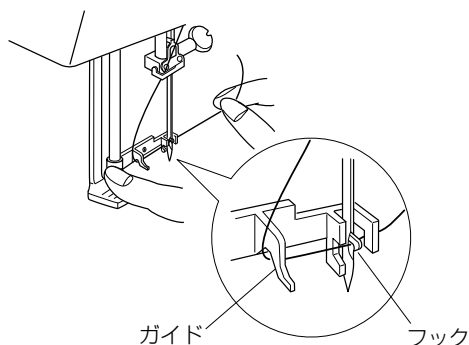
⑥針棒糸掛けに左から掛けます。

⑦糸通しを使って針に糸を通します。
(糸通しの使い方は、12ページをごらんください。)

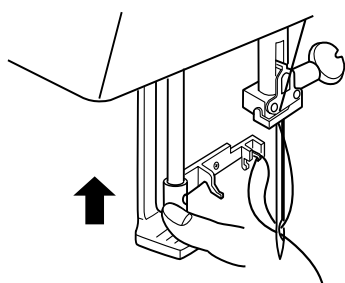
●糸通しの使い方



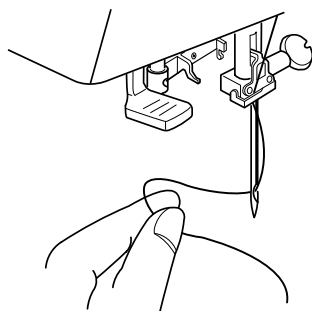
- ①針と天びんを一番上にあげて、糸通しつまみを止まるまでいっぱいひきさげます。フックが針穴に入ります。



- ②糸をガイドとフックに掛けます。



- ③糸の端を軽く持ち、糸通しつまみを静かにはなすと、糸の輪が引きあげられます。



- ④糸の輪を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。

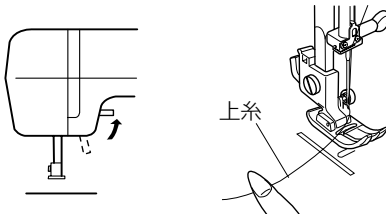
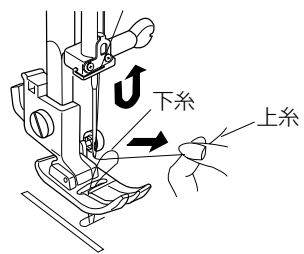
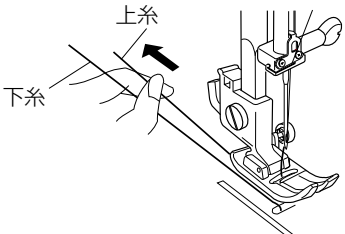


針は、11～16番、およびジャノメブルー針が使えます。



糸は50～100番が使えます。

●下糸を引きあげるには

	①押え上げをあげ、上糸を指で押えておきます。
	②はずみ車を手前に１回転させ、針をあげます。 上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。
	③上糸・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布	糸	針
うすい布 ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	絹 糸 ８０番～１００番 綿 糸 ８０番～１００番 化繊糸 ８０番～１００番	９番～１１番
普通の布 普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール	絹 糸 ５０番 綿 糸 ６０番～８０番 化繊糸 ５０番～８０番 綿 糸 ５０番	１１番～１４番 １４番
厚い布 デニム ジャージー コート地 キルティング	絹 糸 ５０番 綿 糸 ４０番～５０番 化繊糸 ４０番～５０番 絹 糸 ３０番 綿 糸 ３０番	１４番～１６番 １６番

*一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

*原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

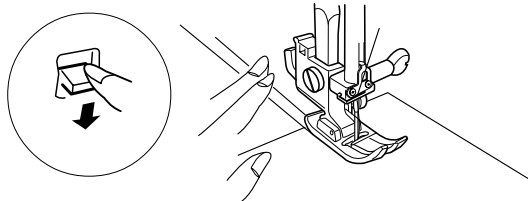
*伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ブルー針を使用すると効果があります。（市販ＳＰ針も同様の効果があります。）

実用ぬいいろいろ

●直線ぬい

セッ トの 目 安	模 様	押 え	ぬい目あささ	糸調子ダイヤル
		A 基本押え	1.5 ~ 4	オート

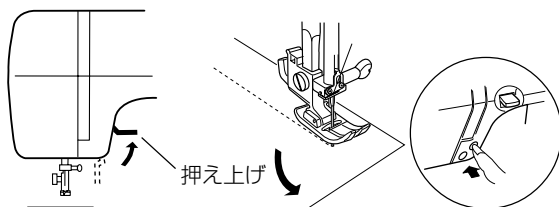
★ぬいはじめ



糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくりぬいはじめます。

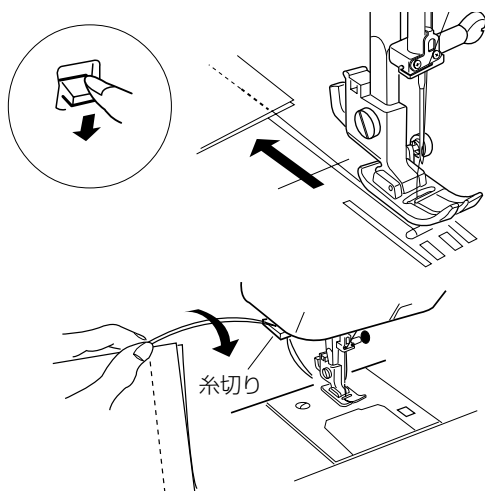
*ぬいはじめのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

★ぬい方向をかえるには



ミシンを止め、はずみ車を手前にまわすか、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押え上げをあげ布をまわしてぬい方向をかえます。

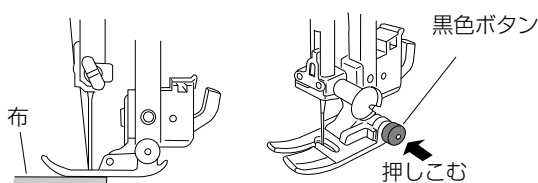
★ぬいおわりと糸の切り方



返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

糸切りで糸を切ります。

★厚手の布端のぬいはじめ

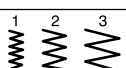


①ぬいはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを押しこみます。

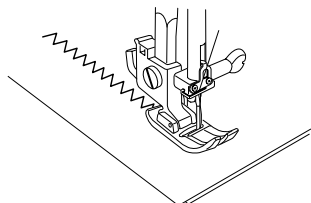
②ボタンを押したままで押え上げをさげます。

③ボタンから手をはなし、ぬいはじめます。

●ジグザグぬいとかがりぬい

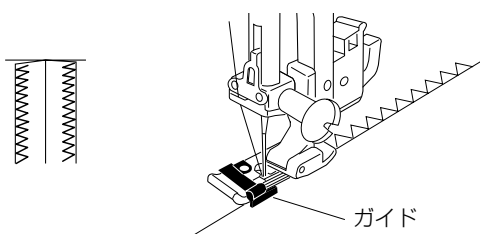
縫いの種類	模 様	押 え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	裁ち目のほつれ止めとして広く利用します。
	123 	A基本押え または C裁ち目かがり押え	ジグザグぬい・・・0.5～4 かがりぬい・・・ 1～2	オート	

★ジグザグぬい



伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るとききれいにぬえます。

★ジグザグぬい裁ち目かがり

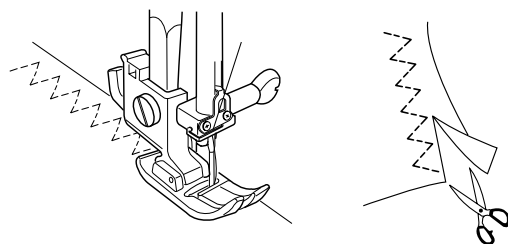


※模様は  を選びます。

布端を裁ち目かがり押えのガイドにあててぬいます。

★トリコットぬい裁ち目かがり

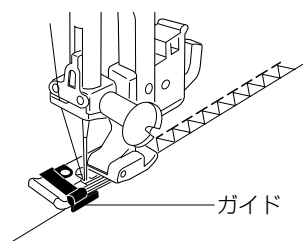
縫いの種類	模 様	押 え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	
		A基本押え	0.5～1.5	オート	



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の返り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

★かがりぬいステッチ

縫いの種類	模 様	押 え	糸調子ダイヤル	*ぬい目あらしの操作は必要ありません。
		C裁ち目かがり押え	オート	



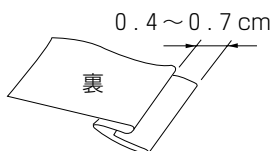
布端を裁ち目かがり押えのガイドにあててぬいます。
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止めに利用します。

●くけぬい（まつりぬい）

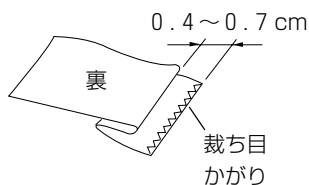
セッ トの 目安	模 様	押 え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	※スカートやワンピース などの裾のまつりが簡 単にできます。
		Gくけぬい押え	1～3	オート	

★（布の折り方）

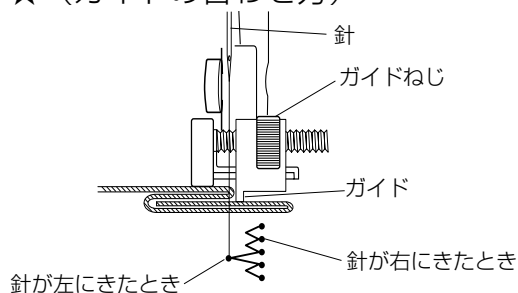
（うすい布、普通の布の場合）



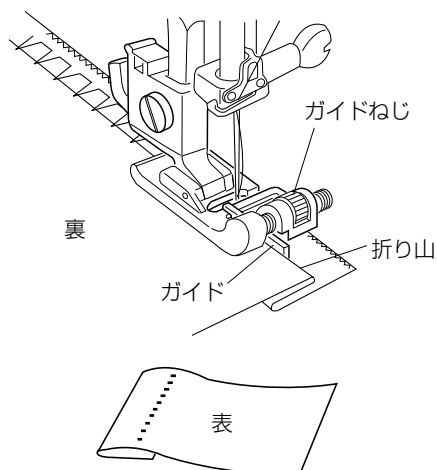
（厚い布の場合）



★（ガイドの合わせ方）



★（ぬい方）



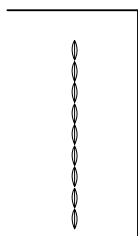
- ①針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて押え上げをさげます。
- ②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないようにぬいます。
- ③ぬい終わったら布をひろげます。

※左側におりる針が必要以上にかかりすぎると、表にでるぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりにませんので注意してください。

●三重ぬい

セッ トの 目安	模 様	押 え	糸調子ダイヤル
		A基本押え	オート

*ぬい目あらしの操作は必要ありません。



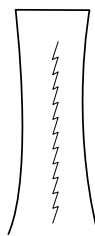
丈夫なぬい目なので、補強ぬいとして、袋物やズボンの股上ぬいなどに便利です。

*布が前後するのでぬい目がまがらないように注意してぬいます。

●伸縮ぬい

セッ トの 目安	模 様	押 え	糸調子ダイヤル
		A基本押え	オート

*ぬい目あらしの操作は必要ありません。

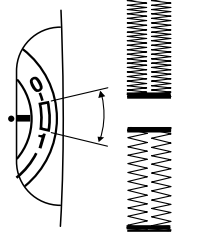
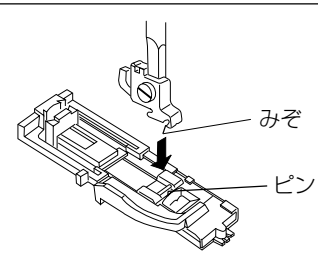
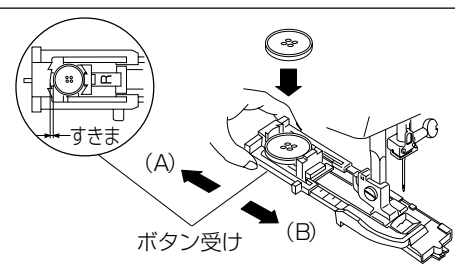
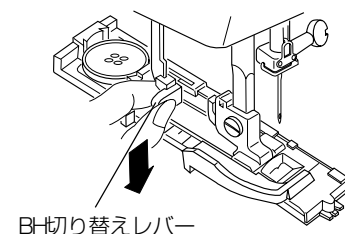
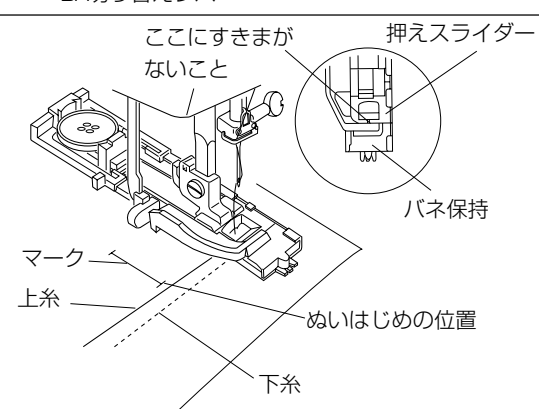


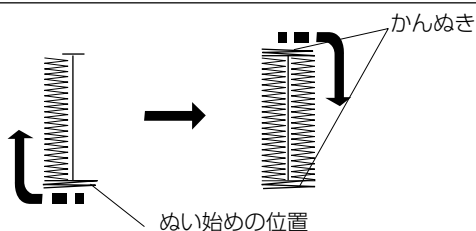
布が伸びても糸が切れにくい伸縮性のあるぬい目です。
ニット地の地ぬいなどに使います。

*布が前後するのでぬい目がまがらないように注意してぬいます。

●ボタンホール

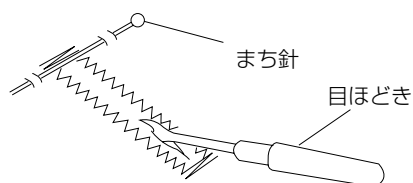
(BH1の場合・・・ぬい目巾大 BH2の場合・・・ぬい目巾小)

セットの目安	模 様	押 え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	<ぬい目あらかさの調節> 細かいぬい目  あらいぬい目
	BH1  BH2 	Rボタンホール押え	0.3～1 ( の範囲)	オート	
＊ボタンホールの長さは、使用するボタンをセットするだけで自動的に決まります。 ＊ボタンの直径が2.5 cmまで、ボタンホールができます。 ＊必ず試しぬいをして、正しくぬえることを確認しましょう。 ＊伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼り、押え圧調節レバーを「1または2」にしてぬいます。					
			①上下停針ボタンを押して針をあげ、押え上げをあげます。 押えホルダーのみぞと押えのピンをあわせ、押え上げをさげてセットします。		
			②ボタン受け台を(A)の方向へ引き、ボタンを乗せて(B)方向にもどしてはさみ込みます。 ＊ボタン受け台のすきまをあけて位置決めをすると、その分大きいボタンホールができます。		
			③BH切り替えレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。		
			④押えをあげて上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。 布を入れ、押えのスタートマークとぬい始めの位置を合わせ、針をさして、押えをさげます。 ＊ぬい始めに、押えスライダーとバネ保持の間にすきまがないことを確認してください。すきまがあると、ぬい終わったときぬいずれがおこることがあります。		



⑤ミシンをスタートさせ、自動的にとまるまでぬいます。

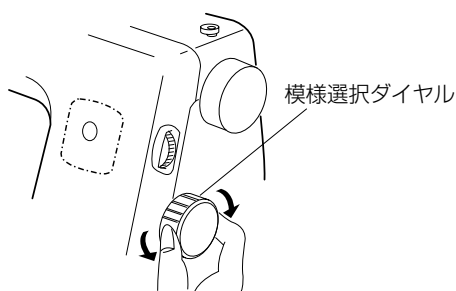
※ぬいおわると  表示が点滅します。



⑥押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

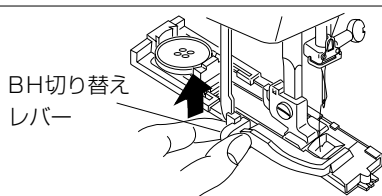
⑦かんぬきの内側にまち針をさし渡して、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

(引き続きボタンホールぬいをする場合)



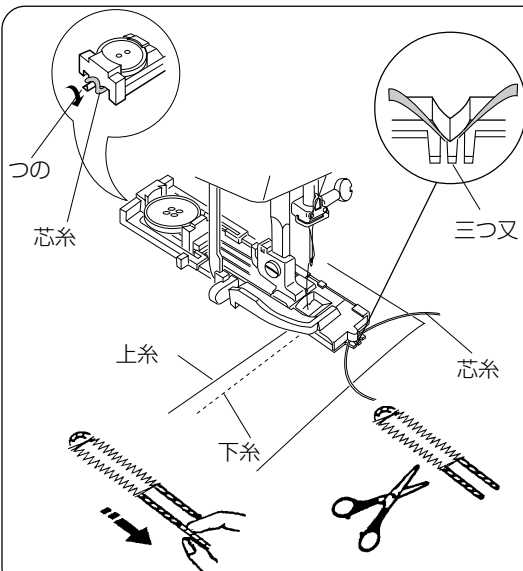
⑧一度ダイヤルを「1」または「2」方向に回して他の模様を選んだ後、再びBH模様を選びます。

この操作をすると模様表示は点滅から点灯に変わり、次のボタンホールぬいのセットができたことになります。



⑨ぬいが終わったら、BH切り替えレバーを止まるまでいっぱい押しあげてもどしてください。

●芯入りボタンホール



○芯糸を入れてぬうと丈夫なボタンホールができます。

○芯糸にはレース糸や太い糸などを使用します。

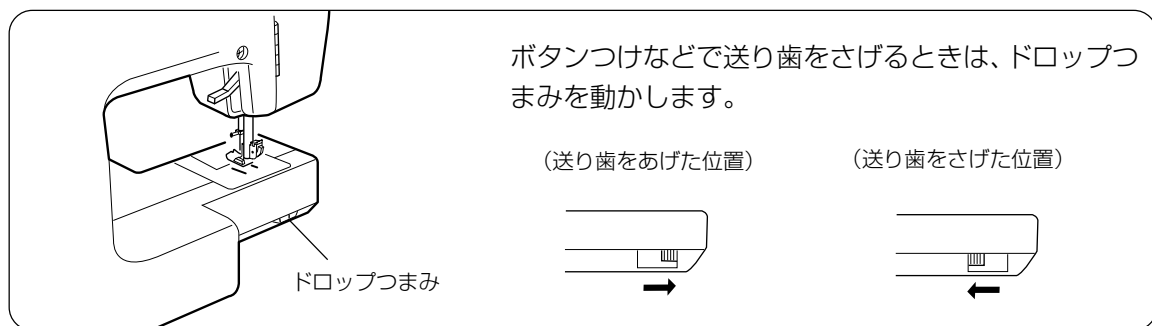
①つのに掛けた芯糸を、押えの下に通して、前側の切り込みに、はさみます。

②ぬいはじめの位置に針をさして押え上げをさげ、ぬいます。

*ぬい方はボタンホール手順と同じです。

③芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

●ドロップつまみ



●ボタンつけ

縫い目の向き	模様	押え	ドロップつまみ	糸調子ダイヤル
		Fサテン押え		オート

*ぬい目あらしの操作は必要ありません。
 *模様 1・2・3は、ボタンの穴の巾に合うものを使用してください。

①はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

②ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押え上げをさげます。

③押えの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。10針くらいぬったら、上糸・下糸を20cmくらい残して切ります。

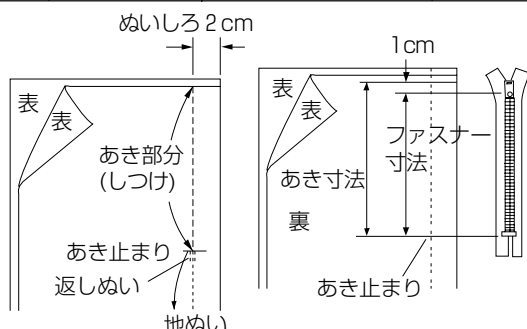
*ぬいはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

④上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。

⑤ぬい終わったら、ドロップつまみを元に戻します。

●ファスナーつけ

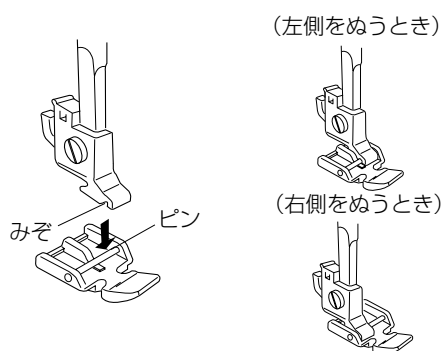
セッティングの目安	模 様	押 え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	※スカート、スラックス、ワンピースなどのあきの始末に用います。
		E ファスナー押え	1.5 ~ 4	オート	



〈準備〉例：左脇あきのぬい方

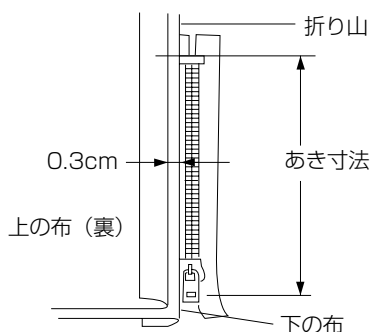
- ①布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをし数針返しぬいをします。
- ②あき部分は、しつけをしておきます。

*あき寸法はファスナー寸法に1 cm プラスした寸法です。



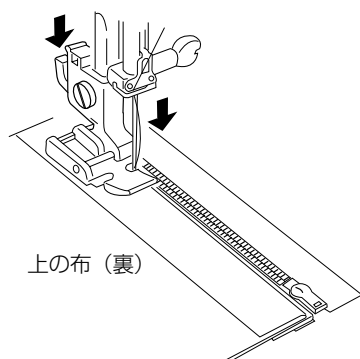
〈ファスナー押えのつけ方〉

- 左側をぬうときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
- 右側をぬうときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて左側にセットします。



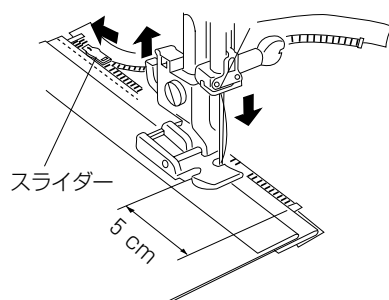
〈ぬい方〉

- ①ぬいしろをわり、下の布のぬいしろを0.3 cm 出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

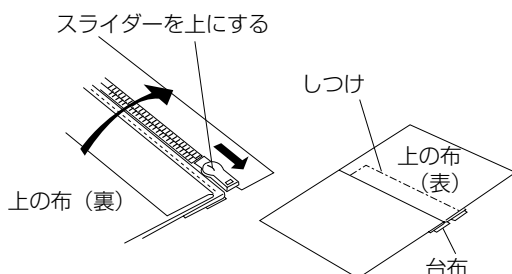


- ②押えホルダーをファスナー押えの右側にセットします。

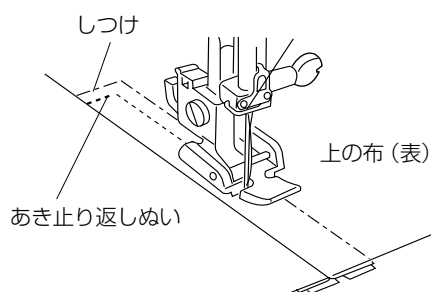
- ③押えの端にむしのきわを当てて、あき止まりからぬいます。



- ④ファスナーの端から 5 cm 位手前でミシンを止め、針を布にさします。押え上げをあげてスライダを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて端までぬいます。

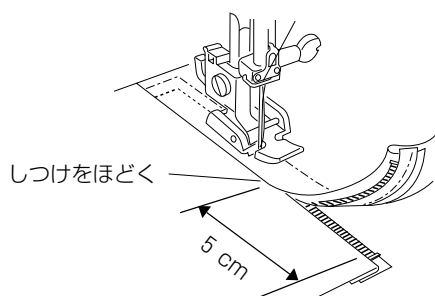


- ⑤スライダを上を引きあげて、つまみの金具を上を倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

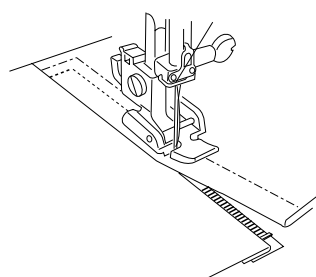


- ⑥押えホルダーをファスナー押えの左側にセットします。

- ⑦上の布のあき止まりを返しぬいして、押えの端にスライダのきわを当ててぬいます。



- ⑧ファスナーの上側を 5 cm くらい残したところでとめて、はずみ車を手前に回し針をさげ、針を布にさしたままで押え上げをあげて、しつけ糸をほどこします。



- ⑨スライダを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りの部分をぬいます。

応用ぬいいろいろ

●キルティング

セ ッ ト の 目 次	模 様	押 え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	
	または	A 基本押え +キルター	1.5 ~ 4	オート	*ぬい目を平行にぬって いく方法で、袋物など の装飾に利用します。

とりつけ穴

キルター

ぬい目の
間かく

キルターをとりつけ穴に入れ、ぬい目の間かくにあわせませう。

キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

●ピンタック

セ ッ ト の 目 次	模 様	押 え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	
	または	Gくけぬい押え	1.5 ~ 3	オート	*ブラウスの前身頃などの 装飾に利用します。

0.1 ~ 0.2 cm

ガイドねじ

表

ガイド

折り山

①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1 ~ 0.2 cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。

②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、ぬいます。

●アップリケ

セ ッ ト の 目 次	模 様	押 え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	
	2	F サテン押え	0.5 ~ 1	オート	*アップリケ布は糊づけするか、 しつけで止めます。また、両 面接着芯を使うと便利です。

花

アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちをぬいます。

*カーブのところや方向転換をするところではミシンを止め、はずみ車を手前に回し、針を下位置にしたままでかえると、きれいに仕上がります。

●ファゴティング

セミツメの面	模 様	押 え	糸調子ダイヤル	*ぬい目あらしの操作は必要ありません。
		A基本押え	オート	

- ①布端と布端の間かくを0.3~0.4 cmあけて、裏にあて紙をします。
- ②布の表から、間かくの中央を中心にしてぬいます。
- ③あて紙をとります。

●パッチワーク

セミツメの面	模 様	押 え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	*模様 はぬい目あらしの操作は必要ありません。
	または	A基本押え	0.5~1.5	オート	

布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。

布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●スモッキング

セミツメの面	模 様	押 え	糸調子ダイヤル	*ぬい目あらしの操作は必要ありません。
	または	A基本押え	オート	

- ①糸調子ダイヤルを1~3にして、ぬい目のあらし0.3~0.4 cmの直線ぬいを、1 cm間かくで数本ぬいます。
- *ぬい終わったら糸調子ダイヤルを「オート」に戻します。
- ②上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。
- ③直線ぬいの糸と糸の間に模様ぬいをしてから、直線ぬいの糸を抜きとります。

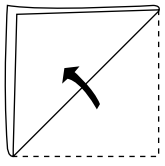
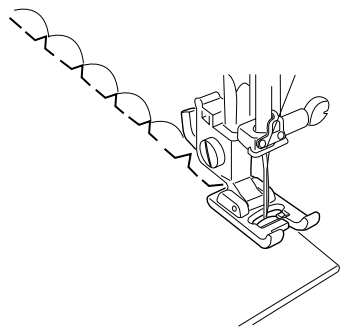
●スカラップ

セミツメの面	模 様	押 え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	
		Fサテン押え	0.5~1	オート	

- ①布の表から、布端を1 cmくらい残してぬいます。
- ②糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

●シェルタック

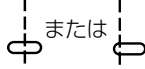
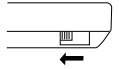
セ ン ト の 目 次	模 様	押 え	ぬい目あらかさ	糸調子ダイヤル	*糸調子は、試しぬいをして、 シェルタックの山がきれいに 出るように調整します。
		Fサテン押え	2～3	6～8	

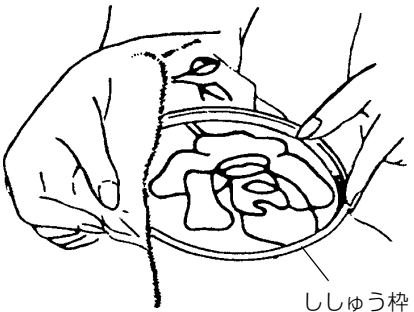



①うす手の布をバイヤスに2つ折りにし、右側を輪にして押えの下におきます。
はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにしてぬいます。

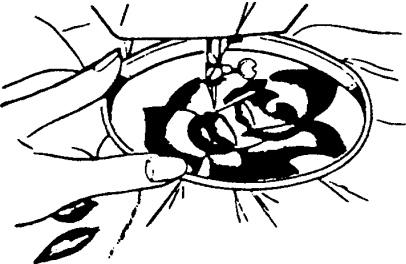
②布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

●ししゅう

セ ン ト の 目 次	模 様	糸調子ダイヤル	ドロップつまみ	*押えと押えホルダーをはずします。 *ぬい目あらかさの操作は必要ありません。 *糸調子ダイヤルは、布の裏側に上糸が少し出 るくらいにゆるくします。
		0～4		



ししゅう枠



○模様は、あらかじめ布の上にえんぴつかチャコで印をつけてください。

①布をししゅう枠にピンと張ります。
*ししゅう枠は、標準付属には含まれていません。

②上糸の端を左手でつまみ、針をぬいはじめの位置にさし、押え上げをおろします。

③はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて、下糸を布の上に引き出します。

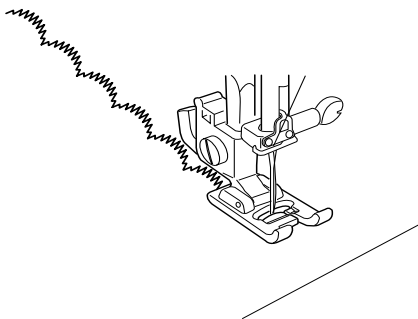
④左手の指先で上糸と下糸を押えて止めぬいをし、余分な糸を切ります。

⑤ししゅう枠を手で下に押しつけるようにし、ゆっくりぬいながら、針が布から抜けている間にししゅう枠を動かし、模様をぬいます。
*動いている針に手を近づけ過ぎて、刺さないように気をつけましょう。

⑥ぬい終わったら、ドロップつまみを元に戻します。

●飾りぬい

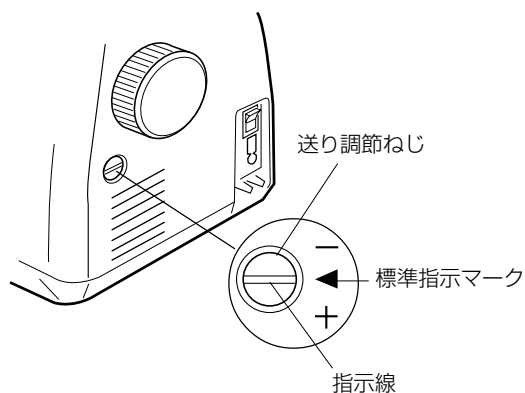
縫い目の 説明	模 様	押 え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	
		Fサテン押え	0.5～1	オート	



ぬい目のあらしを合わせるとき、ぬい目が細かすぎるとつまることがあるので、試しぬいをして調節してください。

※布が縮むときは、布の下に紙を敷くか、接着芯を貼るときれいに仕上がります。

●スーパー模様の形の整え方



布の種類、枚数、ぬいの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら送り調節ねじでつぎのようにして調節してください。

※標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しくぬえる目安の位置です。

模様がつま
まっている
とき



送り調節ねじを「+」
の方向にまわす。

形が整う



模様が伸び
ているとき



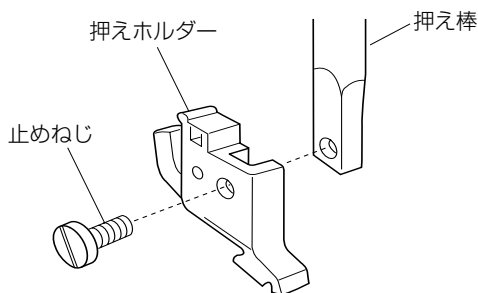
送り調節ねじを「-」
の方向にまわす。

押えホルダー・針・ランプのとりかえ方



とりかえのときには、必ず電源スイッチを「切」にしてコンセントから電源プラグを抜いてください。

●押えホルダーのはずし方・つけ方



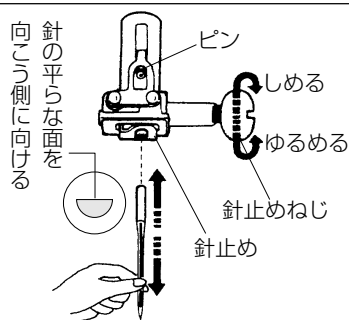
〈はずし方〉

押え上げをあげ、押えをはずし止めねじを左にまわしてはずします。

〈つけ方〉

押えホルダーの穴と、押え棒のねじ穴を合わせ止めねじをさしこみ、右にまわしてしっかりつけます。

●針のとりかえ方



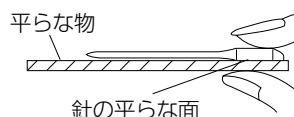
〈はずし方〉

針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針をはずします。

〈つけ方〉

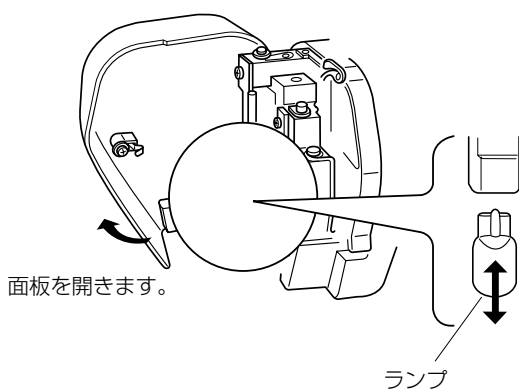
針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めにさしこんで、針止めねじをかたくしめめます。

針の調べ方



針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲ったり、つぶれているものは使わないようにします。

●ランプのとりかえ方



①面板を開けます。

②ランプをそっと引き抜きます。

③ランプをソケットの穴にあわせながら差し込みます。

※ランプをとりかえるときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

※ランプは冷えてからはずしてください。

※ランプ品番は、0 0 0 0 2 6 0 0 2 (12V, 5W)

ミシンの手入れと調整

●ミシンの手入れ

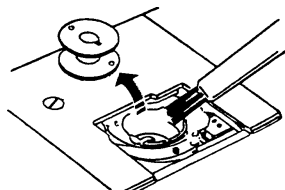


手入れのときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

使用後は、いきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

＊針と押えは、とりはずして手入れをしてください。

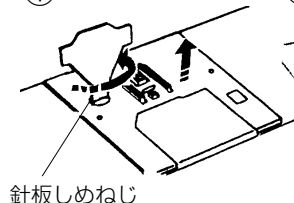
★かまの掃除



- ①角板をはずし、ボビンを取り出して糸くずやほこりを、ブラシで掃除します。

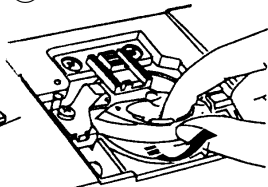
★かまの分解

①



針板しめねじ

②

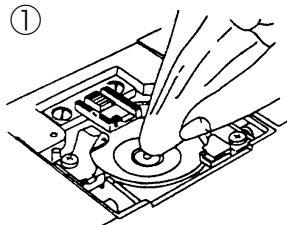


- ①針板しめねじをはずし、針板をはずします。

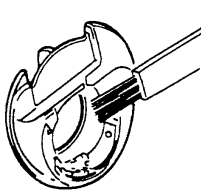
- ②ボビンを取り出し内がまの手前を上引きながら掃除します。

★かまと送り歯の掃除

①



②

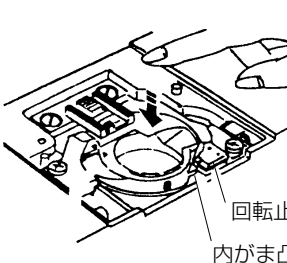


- ①送り歯のごみを、ブラシで手前におとし、さらに外がまを掃除し、外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

- ②内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

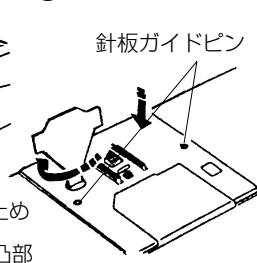
★かまの組立て

①



回転止め
内がま凸部

②



針板ガイドピン

- ①内がまをさしこみ三角マークを合わせて、内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

- ②ボビンを入れ２か所の針板ガイドピンに針板の穴を合わせて、しめねじをしめます。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
上糸が切れる。	1. 上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針がまがっていたり、針先がつぶれている。 4. 針のつけ方がまちがっている。 5. ぬいはじめに、上糸・下糸を押えの下にそろえて引いていない。 6. ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 7. 針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	11 ページ参照 7 ページ参照 26 ページ参照 26 ページ参照 13 ページ参照 14 ページ参照 13 ページ参照
下糸が切れる。	1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	10 ページ参照 27 ページ参照 ボビンを交換する
針がおれる。	1. 針のつけ方がまちがっているか、針がまがっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 4. 布にくらべて針が細すぎる。	26 ページ参照 26 ページ参照 14 ページ参照 13 ページ参照
ぬい目がとぶ。	1. 針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。 2. 布に対して、針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針（市販 S P 針）を使っていない。 4. 上糸の掛け方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。	26 ページ参照 13 ページ参照 13 ページ参照 11 ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる。	1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布にくらべて針が太すぎる 4. 布にくらべてぬい目があらずすぎる。 *特にうすい布をぬうときは、下側に紙をあててぬってください。	7 ページ参照 10・11 ページ参照 13 ページ参照 ぬい目を細かくする
ぬいずれがおこる。	1. 押え圧が、あっていない。	7 ページ参照
布送りがうまくいかない。	1. 送り歯に糸くすがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。	27 ページ参照 ぬい目をあらくする 19 ページ参照
ぬい目に溝ができる。	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	7 ページ参照 13 ページ参照
ミシンがまわらない。	1. コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている） 4. コントローラを接続したままでスタート・ストップボタンを押している。	5 ページ参照 27 ページ参照 9・10 ページ参照 5 ページ参照
ボタンホールがうまくいかない。	1. 布に対して、ぬい目のあらしさが合っていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	17 ページ参照 17 ページ参照
音が高い。	1. かまの部分に、糸くすが巻きこまれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。	27 ページ参照 27 ページ参照

別売品のご紹介

1. 直線押え (NO.823801015)

●直線ぬい

〈セットのめやす〉

模様選択ダイヤル



糸調子ダイヤル 2～6

ぬい目あかさ 1.5～4

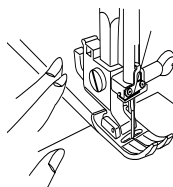
押え



H直線押え

《ぬい方》

糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくりぬいはじめます。



2. 三つ巻き押え (NO.820809014)

●三つ巻きぬい

〈セットのめやす〉

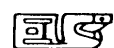
模様選択ダイヤル



糸調子ダイヤル 3～6

ぬい目あかさ 1.5～4

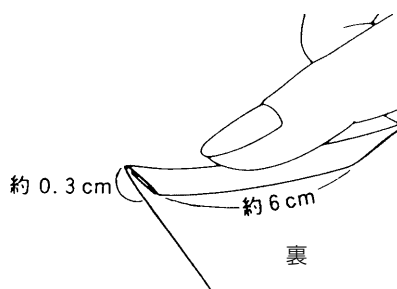
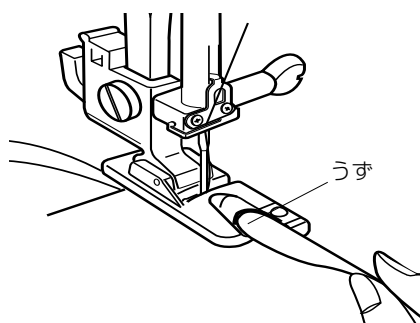
押え



D三つ巻き押え

《ぬい方》

- ①布端の長さ約6 cmを、約0.3 cmの巾で2度折りまげます。
- ②ぬいはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。
- ③上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1～2 cmぬいます。
- ④はずみ車をまわして針をさし、押えをあげて折りまげた布の部分を押えのうずの中に巻きこみます。
- ⑤押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながらぬいます。



3. イーブンフット (NO.214870008)

押えの使用方法は、説明書が箱の中に同梱されています。

仕 様	
使 用 電 圧	100V 50/60Hz
消 費 電 力	55W / ランプ5W
外 形 寸 法	幅 42cmX 奥行 17cmX 高さ 30cm
重 量	8.0kg (本体)
使 用 針	家庭用 HA X 1
縫 速 度	毎分 700 回転

仕様及び外観は改良のため
予告なく変更することがあ
りますのでご了承下さい。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保存して下さい。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より一年間です）およびそれ以降の修理のつきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付け下さい。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後も、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをしします。
ただし、次のような場合は修理できないことがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店、又は当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地

お客様相談室 TEL. 0120-026-557 (フリーダイヤル)
042-661-2600

受付 平日 9:00～12:00 13:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

ホームページ <http://www.janome.co.jp>

メールでのお問い合わせ customer@gm.janome.co.jp

♥ MEMO ♥

